

広報 ごじょうめ

発行所 秋田県五城目町役場 編集 秘書課 電話(018876)代 2100番
印刷所 湖東印刷所 電話(018876)2430番 一部 5円
郵便番号 018-17 毎月 1日・15日発行

人口と世帯

世帯数 3,960 世帯
人口 17,231 人
内訳 { 男 8,317 人
女 8,914 人

住民登録調 (52年2月末日現在)

転入・転出の場合はかならず窓口へ届出ください。



春の香りを求め「しのは」採りを済むおばあちゃんたち

のどかな反面あらしの季節

3月13日の日曜日は、ちよつぱり冷えたが、それでもようやく本格的な春の到来を思わせるおだやかな一日であった。おばあちゃん達は、早速春の香りを求めて「しのは」採りを楽しんでいた。歳時記をめくると、春ののどかさを表わす言葉が多い「春暖、うららか、日永、遅日、かすみ、かげろう」などであるが、反面、「春嵐、春疾風（はるはやて）、春荒（はるあれ）春雷、竜巻き」など、厳しさを強調する言葉もまた意外に多いのである。のどかな反面、あらしの季節でもある。

厳しい冬に別れを告げる「春一番」

今年は去る3月9日、雪国秋田にとっては待望の「春一番」が県内を吹き荒れて、雪解けが一段と進んだ。厳しい寒波に明け暮れた長い冬に別れを告げる季節の唄でもある。しかし、春一番の強風も馬鹿にはできない。記憶に違いがなければ、去る47年3月20日の春一番では、富士登山者が24人続いで日本海で死者、行方不明113人という山と海で遭難事故が起きている

春が来た

油断禁物火の用心

春は夏秋の台風を除けばすべての嵐が集中する季節である。

火気に油断禁物

そも春一番とはもともと西日本の漁師の間で用いていた風の名前であるが、その原因は雪のない大陸の暖気と、雪におおわれている大陸の低い気温差が、北風と南風となって日本海で衝突することであり、立春すぎ最初にドッと吹き込む南風が春一番と言われている。

強い南風は、多雪地帯の雪どけを促し、なだれや雪どけ洪水をおこす。かと思えば、山を越えて吹きおろる風はフェーン（乾熱風）となり大火事の原因となる。山火事の90%は人間の仕業であり、その70%はたばこの火だと言われている。何十年も手塩にかけた美林をまたたく間に灰じんに帰してしまう、これほど無駄な資源の使い方はないのである。

これから、強風の季節は北上し秋田は3月下旬から5月がそれに当る。お互いの財産を守るためにも春の温かさにほだされず、火気におさおさ油断してはならない。

△広報サロン▽

すばらしかった人

五一中 一年 畑井 和香



私の近所の人でよく知っていた。四、五日前から祖母から清水ら、「清水さん

さん新聞さ出でたっけな」とは聞いたものの、別にどんなことかなど追求もしなかった。でもこの記事を読んだみると「せめて卒業させたかった」という意見には私も同感である。清水さんに取り着いた病魔は、なんとにくだらう。一年半、あと一年半で卒業できたものを、去年まで製めん業をし、夕方自転車にうごたのいばいっつんで、毎日運んでいたのがつい昨日のようだった。それだけやっとなつてもつかるのにその上勉強もしていたなんて、なんてりっぱなんだらう。

毎日三時には起きて仕事、私はまだふとんの中でグーグーしている時に働いていたんだなあ。うどんを食べても、おいしい、おいしくないので別にそんなことなんか……。このまま年をとるより、なにか生きがいを見つけたければ、この言葉には、清水さんの性格がよく表われている。何かをしていなければ、どうにもならないしうぶんだったのだらう。

年寄り若い人は、よく気が合わないものだが、この人はどんなに心の豊かな人なのだろう。かおじいさんという愛称もついていたなんて。私も将来年をとってもこんなふうになりたい人間で同じような生活をしてても、清水さんのように、一生をすばらしく暮らした人と、遊びっぱなしで生活した人とは……。

私も、これからの人生を清水さんのように有意義にすごしたいものだから 学校文集「ひろがの」から

と林間歩道など総工費五千万円で

この地は昭和四十七年に県から第二次林業構造改善事業の一環として森林総合利用促進事業の指定を受けて、森林資源を確保しながら地域の人々に広く保健休養の場として利用もらおうと、総工費五千万円を投じ昭和四十八年度から三カ年計画で森山を整備してきたものである。

(一〇棟) やテント
(二〇張) キャンプ
に気軽に出かけら
れる。

岩野山保健保全林
と並ぶ、また新しい
名所公園ができ、自
然の美しさを持った

二二六・六
ha
四五万円

五〇六元

一二万円

計 五一、八三万二千円

叙位、叙勲の伝達式

このほど生存者、戦没者に対する叙位、叙勲の伝達式が行なわれた。氏名はつぎの通りである。

端六	准尉	本間	倉治	館越
端七	軍曹	齊藤勝藏	中川原	

正八位、少尉 長谷川定作 仲町
 〃 〃 〃 畑沢市郎 湯ノ又
 〃 〃 〃 小熊新四郎 西野
 〃 〃 〃 菊地耕二 紀久榮町

(敬称略)

豪雪対策、峠を越す

昨年の暮れから全国的に寒波が襲来し、各地に豪雪をもたらした本町は四十八年につぐ豪雪対策本部を設け、総ぐるみの除雪態勢を整えた。

二月の中旬をピークに昼夜兼行作業で、主要幹線道路をはじめ吹雪の激しい大川地区、入通沢、北口し尿投棄場など生活関連道路を確保するため、人員、機材を総動員した。この結果、大きな災害もなくみんなほっとした表情である。今後の豪雪に多くの教訓を与えた。

よって五城目の市がどうなっただろうか。その間の事情を物語る確実な史料は、まだ見つかっていない。

ただ寛永六年（一六二九）六月二日に、義宣が五十目市を視察したという記録と、元和七年（一六二一）七月十日に、後に家老となった梅津政景が「五十ノ目馬こ」を見物にきたと日記に書いたものがこっているだけである。こうした記録は、中世以来の市がそ

のままつげられ、馬町（馬市）
ものにぎやかに開かれていたものと
思われる。

人びとの生活に深く根づいたも
のが、領主がか変わったかといつ
て消えてしまふものではない。藩
主視察は、中世からの藩内一の市
をじかに見たという、義宣の希
望から行われたものであろう。

市を中心にした商圈は非常に広い。菅江真澄の「氷魚の村君」には、文化四年（一八〇七）の冬の話として、市から戻る炭俵をつんだ馬が八郎潟の湖上で吹雪にふきこめられ、氷上で炭をたいて一夜

をあかしたと書いている。市とは五十目市で、鴻の向うへ氷上に道がつくくらいに市へうの人が歩いたという話は、五城目の商團をはっきりさせる。石井三友の「秋田繁昌記」にも、北浦のハタハタが、氷の上を渡って市へやってきたとある。

嘉永五年（一八五二）に開店したという小森本店の計量器修理の帳面には、東は米内沢方面、西は五里合、北は森岳、浜田、南は金足、黒川、下新城、船越という地名々々ある。その商圏の広さは、

市がさかんになると、二七の市は、
齋市である月六回の市では足りない
いというので、定期市の中間に中市
とよぶ市がたつようになった。
定期の二七の市は大市とよばれる

よくなる。寛文四年（一六六四）に許可された六斎市のワクをこえた規模となつてゐる。在方市としては、さらに駄目市が加わつて空前的市となつていくのである。

五城目の商業活動は、幕末になつてくると商店の取引も活発になつてくる。

小森本店を例にしてみてみよう。近江商人の血を引く小森家は、五城目の市のたつ通りに店を開き、卸と小売りをはじめている。当時、店は持つ商人より、ボテふりつよばれる行商人が圧倒的に多かった。小森本店は、行商人への卸売りをしている。新しい日に入つてその日の太陽が顔を出すまでが卸

売りの時間、夜があけると小売りの時間となり、夕方まで店を開くという営業のシステムがある。この経営方法は、五城目の大きな商店の普通のあり方だったと思われる。

五城目の商店、商業に関連する史料はほとんど出ていないので、小森本店の話は大変貴重である。なお、この頃の衣料品店は古手屋という古着屋がほとんどである。

現在「市」の存続も含めて在り方が云々されているが、昔の「市」の様子をふり返ってみることも必要であらう。

(この項おわり)

(この項おわり)

昭和五十一年全町文学祭

川柳・短歌・俳句・随筆など

各部門の入賞作きまる

☆去る三月一日午後一時から町民センター…☆

☆で全町文学祭が行われた。この文学祭は…☆

☆短歌、川柳、俳句、随筆、詩の五つの部…☆

☆門に分かれ各々趣向をこらした作品が多…☆

☆まず作家賞には川柳部門の鍋谷福枝…☆

☆短歌部門で「逝きし子」工藤ミネ子、随…☆

☆筆の入選は「巡る冬」、「日曜百姓の四…☆

☆季が各々選ばれた。ことしの特徴は中…☆

☆学生が各部門にわたり出品し、総作品の…☆

☆半分を占める状態で各選評者も若い人が…☆

☆参加することでもこれからの通…☆

☆実するだろうと期待していた…☆

☆以下各部門の入賞作はつぎの通りである…☆

▼川柳 柳 健蔵 港舟選

◎作家賞 鍋谷 福枝(長町)

「雑詠」

・日めくり過去を繋いでいる女

・雑草で終るつもりの靴を履く

・火を抱いているかも妻の寝顔た

・死花を咲かせる海を模索する

・米を研ぐあすへ何かを信じてい

◎佳作

・「冬の空」 草皆チエ(帝釈寺)

・冬空の重く吐息を深くする

・亡母の貌はのかに冬の灯をと

・農閑のせめてもつづる冬の詩

・「北の性」 八木下みさ(築地町)

・五指みんな私の癖を知りつくす

・自から責めておびしき自閉症

・冬眠の春を待つ身のかくれミノ

・「愛の灯」 福島ミツ(米沢町)

・愛の灯をつけては消して去る女

・流行のなれ格調の彩を着る

・家計簿を締めて緩めて妻の智慧

・「慣れぬ作業」 松橋正之助(浅見内)

・「桐の花匂う」 佐藤義三(小倉)

・「或る日常」 伊藤令以子(町村)

・「法要に集いしはらからとえ山に

・登る」 山平富子(新町)

・「中学校短歌」 佐々木 円

・かさかさ葉を踏む音の聞こえ

・きて窓辺を通る人の気配す

・朝そうじわれらの班長なにもせ

れず 予何の精なる

・両の手に始めて受けし吾子とい

う愛しさ温み実感となる

・逝きし子の胸に過ぎる来雨の日

は遠くの山に語りかける

(評)

・一年有余の短い生命でこの世を

去った幼な子に寄せる哀しみがよく

表われている。歌の調子に柔ら

かさがあり、作者の感受性は繊細

で鋭い。感情に溺れがちな題材で

あるが、素材に振りまわされるこ

となく感情を整理しているのはさ

すがである。幼な子への憐憫の情

が全体をつみしめしみとした世

界を構成している。

◎秀逸

・「佐渡」 伊藤チヨエ(町村)

・策謀と怨嗟のいまだ減びざる今

はの佐渡にはしる雷光

・相川の坑道をたどれば無宿の涙

のごとき岩零する

(評)

・佐渡の歴史は一般的に人間の悲

しみの歴史と受けとめられ、旅行

者は特にその点を強く感ずる。佐

渡の作品は多くの人に詠まされて

いるので独創性は出にくい。この

一連新味には乏しいが流麗な表現

で旅の心を詠みあげており、全体

の構成や破綻のない歌い方は安定

した力を示している。

・「慣れぬ作業」 松橋正之助(浅見内)

・「桐の花匂う」 佐藤義三(小倉)

・「或る日常」 伊藤令以子(町村)

・「法要に集いしはらからとえ山に

・登る」 山平富子(新町)

・「中学校短歌」 佐々木 円

・かさかさ葉を踏む音の聞こえ

・きて窓辺を通る人の気配す

・朝そうじわれらの班長なにもせ

・班長替えと相談しあう

・「中学校短歌」 佐々木 円

・かさかさ葉を踏む音の聞こえ

・きて窓辺を通る人の気配す

・朝そうじわれらの班長なにもせ

・班長替えと相談しあう

・「中学校短歌」 佐々木 円

・かさかさ葉を踏む音の聞こえ

・きて窓辺を通る人の気配す

・朝そうじわれらの班長なにもせ

佐々木 潤子

・農業をつぐ決意かたしわれこそ

はこの期とばかり大人になりて

・夕せまり暗くなりても働く父母

なぜか自分も手伝たくなる

(評)

・テレビ見ず勉強せよと母がいう

宿題ないといわれはうそをつく

・「中学校短歌」 佐々木 潤子

・かさかさ葉を踏む音の聞こえ

・きて窓辺を通る人の気配す

・朝そうじわれらの班長なにもせ

・班長替えと相談しあう

・「中学校短歌」 佐々木 潤子

・かさかさ葉を踏む音の聞こえ

・きて窓辺を通る人の気配す

・朝そうじわれらの班長なにもせ

・班長替えと相談しあう

・「中学校短歌」 佐々木 潤子

・かさかさ葉を踏む音の聞こえ

・きて窓辺を通る人の気配す

・朝そうじわれらの班長なにもせ

・班長替えと相談しあう

・「中学校短歌」 佐々木 潤子

・かさかさ葉を踏む音の聞こえ

・きて窓辺を通る人の気配す

・朝そうじわれらの班長なにもせ

・班長替えと相談しあう

・「中学校短歌」 佐々木 潤子

・かさかさ葉を踏む音の聞こえ

・きて窓辺を通る人の気配す

・朝そうじわれらの班長なにもせ

・班長替えと相談しあう

・「中学校短歌」 佐々木 潤子

・かさかさ葉を踏む音の聞こえ

・きて窓辺を通る人の気配す

・朝そうじわれらの班長なにもせ

・班長替えと相談しあう

・「中学校短歌」 佐々木 潤子

・かさかさ葉を踏む音の聞こえ

・きて窓辺を通る人の気配す

・朝そうじわれらの班長なにもせ

・班長替えと相談しあう

・「中学校短歌」 佐々木 潤子

・かさかさ葉を踏む音の聞こえ

・きて窓辺を通る人の気配す

・朝そうじわれらの班長なにもせ

・班長替えと相談しあう

・「中学校短歌」 佐々木 潤子

・かさかさ葉を踏む音の聞こえ

・きて窓辺を通る人の気配す

類や銅い鷹になどは比較的俳

句的だが、稲ワラ焼くや粉挽きの

の、とくに下五などは自由詩的発

想といえよう。

(評)

・末枯や拓土の果の山澄みて

・「中学校短歌」 佐々木 潤子

・かさかさ葉を踏む音の聞こえ

・きて窓辺を通る人の気配す

・朝そうじわれらの班長なにもせ

・班長替えと相談しあう

・「中学校短歌」 佐々木 潤子

・かさかさ葉を踏む音の聞こえ

・きて窓辺を通る人の気配す

・朝そうじわれらの班長なにもせ

・班長替えと相談しあう

・「中学校短歌」 佐々木 潤子

・かさかさ葉を踏む音の聞こえ

・きて窓辺を通る人の気配す

・朝そうじわれらの班長なにもせ

・班長替えと相談しあう

・「中学校短歌」 佐々木 潤子

・かさかさ葉を踏む音の聞こえ

・きて窓辺を通る人の気配す

・朝そうじわれらの班長なにもせ

・班長替えと相談しあう

・「中学校短歌」 佐々木 潤子

・かさかさ葉を踏む音の聞こえ

・きて窓辺を通る人の気配す

・朝そうじわれらの班長なにもせ

・班長替えと相談しあう

・「中学校短歌」 佐々木 潤子

・かさかさ葉を踏む音の聞こえ

・きて窓辺を通る人の気配す

・朝そうじわれらの班長なにもせ

・班長替えと相談しあう

・「中学校短歌」 佐々木 潤子

・かさかさ葉を踏む音の聞こえ

・きて窓辺を通る人の気配す

・朝そうじわれらの班長なにもせ

・班長替えと相談しあう

・「中学校短歌」 佐々木 潤子

・かさかさ葉を踏む音の聞こえ

・きて窓辺を通る人の気配す

・朝そうじわれらの班長なにもせ

・班長替えと相談しあう

・「中学校短歌」 佐々木 潤子

・かさかさ葉を踏む音の聞こえ

・きて窓辺を通る人の気配す

・朝そうじわれらの班長なにもせ

のひとつの要素となつて生き

くという、老人の悠々とした人生

観を語っている。一つの生きがい

一つの境地を描いてはいるが、あ

まりに絵になりすぎているのが私

のせいたく不満である。

(評)

・その点「巡る冬」には、文章

としては荒けずりで上手とは決し

ていないが、読み手に訴え読み

手をひきづりこんで行く強さがあ

った。自分の歩んできた道をふり

返り、その風景の中の一点をたっ

ぷりと書きこんでいる。この文章

は、どうしても書かなければなら

なかったこと、書いておかなけれ

ばならなかったこととして書いて

いる。この作品は、欠点の多い文

章でありながら、入選としたのは

そうした選者というより読み手と

しての感動を大切にしたらだつ

た。きちんと構想をたててから書

くこと、ことばをきびしく選ぶこ

と、誤字を書かぬこと、以上の三

点を文章を書くときの基本的な事

項として全応募者におねがひした

い。

・「雪の精」 伊藤京子(五一中)

・「あなたと一緒に学び友となつた

「一学生があなたに捧げる詩」

北嶋 美智夫(五一中)

・「雪の精」 伊藤京子(五一中)

・「あなたと一緒に学び友となつた

「一学生があなたに捧げる詩」

北嶋 美智夫(五一中)

・「雪の精」 伊藤京子(五一中)

・「あなたと一緒に学び友となつた

「一学生があなたに捧げる詩」

北嶋 美智夫(五一中)

・「雪の精」 伊藤京子(五一中)

・「あなたと一緒に学び友となつた

「一学生があなたに捧げる詩」

北嶋 美智夫(五一中)

・「雪の精」 伊藤京子(五一中)

・「あなたと一緒に学び友となつた

「一学生があなたに捧げる詩」

北嶋 美智夫(五一中)

・「雪の精」 伊藤京子(五一中)

・「あなたと一緒に学び友となつた

「一学生があなたに捧げる詩」

北嶋 美智夫(五一中)

・「雪の精」 伊藤京子(五一中)

寒さをふきとばす親子体力づくり



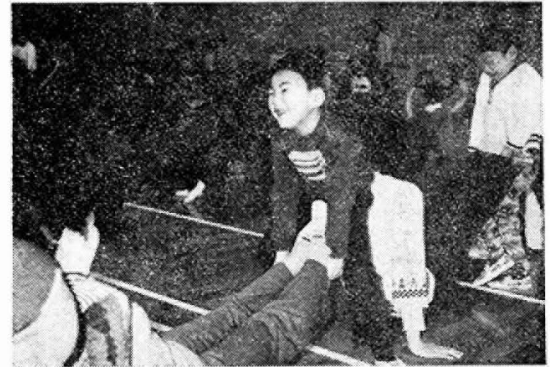
手を上に大きく背伸びして



お母さんにおんぶして体育館を一周



お母さんの手をかいくぐって



お母さんの足をよいしょ、よいしょ

とも稼ぎ夫婦が増え、家庭で親と子が過ごす時間が少なくなつたといわれる。また寒い間はどうしても体を動かす機会が少ない。これを解消しようと公民館では、保育園、幼稚園児を対象に親子の体力づくり教室がさかに行われている。

この日集まった親子は一五〇名、お母さんの前にきちんと並んだ子どもたちは体育指導員の説明を受け、かけ声も勇ましく準備運動から始まる。

そのプロフィールを紹介してみよう。

母子保健推進員の

設置を喜びたい

畑町 伊藤 キミ

私たち年代には、縁遠い研修会の集いと思つたが、町内の保健補導員である以上責任もあつたので出席した。

補導員の仕事をして六年目、どうにか仕事の内容もわかり、特に皆検診事業(婦人病、胃腸、循環器)、国保事業(被保険者証の更新)等、その他についても幾らかの手伝いさせているが、母子保健推進員としては初めて聞く役名である。

このたび県主催で、母子保健推進員の研修会が農協会館で開かれた。会場の受付で頂いたパンフレットは妊娠、出産、新生児、つまり赤ちゃんの事ばかり、次第は母子保健推進員の活動とその役割で内容がはつきりわからずますます年令に縁遠い課題のように思つた。保健所長のあいさつ、指導係長

体育施設整備士資格認定試験に本町職員二名合格

この資格認定試験は(財)日本体育施設協会主催で、全国から希望者を募って毎年実施している。今年度は去る一月十七日(月)二十一日(金)までの五日間講習、二十二日(土)が実技と学科試験を、東京都「国立競技場」、「オリンピック記念青少年総合センター」等で行われた。

内容は「屋内、屋外共通科目」と「屋内科目」、「屋外科目」に分かれた講習と試験で、全国から「国際級、国体級体育施設」を有する都市や大学、高校の教職員等九十名が参加した。

合格率のよい年で七〇%位といわれている難関を突破して、日常実践している実力と懸命な勉強によつて本町からの参加の二名が見事合格し、今後の活躍が大いに期待されている。

合格者は次の通りである。

・教育委員会社会教育課(公民館) 小玉 博 (共通と屋外)

石川 昭一 (共通と屋内)

の管内における母子保健の概要、南秋医師会長の「母と子の健康について」の講演は大変に良い話を聞き、正しい育児の知識、母になるための心がまえなど参考になった。

指導係から「推進員の役割と仕事の心得について」詳しく説明があり、また助産婦会長から活動状況



況について、自分の体験を生かした立派な講演があり、だんだんわかって来たように感じられたが、我々素人には余りにも重荷の役目ではないかと不安になった。

ところが最後に推進員活動の映画が上映されてはじめて、これは誰でも出来る事だと思つたが、矢張り若い方に適していると思つた。

最近、旦那様の勤めの関係で本町へ転入され、出産された若い奥様が、知らない土地でしかも借家に赤ちゃん一人置いて病院にも行けなかった。借家はせまく不便で子どもはもう一人で沢山、後は妊娠も出来ない、嘆いて相談を掛けられた事があつた。

自分の娘も妊娠中に県南の知らない土地に転動になり、色々苦勞した頃を思い浮べ、こんな時に推進員の方がおたらどんなに力強い事だろうと、あらためてその必要性を痛感した。

後日新聞で、県民健康会議で、母子保健推進員を設置推進など提唱を……読み、こんな制度が出来るのは大変良い事だと思つた。

本町でも五十二年より町内部落ごとに母子保健推進員をおき、その地域の実情に応じた事業を十分に運営出来るよう配慮されていると聞き喜んでいる。そしてどんな事でも常に豊かな愛情と誠意をもって懇切にいいに相談を受けられるような推進員になりたいと思つた。

分かれた講習と試験で、全国から「国際級、国体級体育施設」を有する都市や大学、高校の教職員等九十名が参加した。

合格率のよい年で七〇%位といわれている難関を突破して、日常実践している実力と懸命な勉強によつて本町からの参加の二名が見事合格し、今後の活躍が大いに期待されている。

合格者は次の通りである。

・教育委員会社会教育課(公民館) 小玉 博 (共通と屋外)

石川 昭一 (共通と屋内)

ちなみに本県における有資格は今回の二名を含めて三名だけ。

国民健康保険に加入の皆さんへ

昭和五十二年四月一日から国民健康保険の被保険者証が更新になる。

町では各町内部落の保健補導員を通じ、新しい被保険者証を交付する。

現在使用している被保険者証と引換えに受取っていただきたい。くわしくは保健衛生課(電話二一〇〇)原田まで。

△農業指導・ターダより▽

育苗準備は早めに

いよいよ本格的な農作業の季節になった。育苗の準備は十分ですか？もう一度点検してほしい。

種籾の準備

昨年産の種籾は、多かれ少なかれ冷害を受けていると思う。十分に胚乳養分が充実していないものが平年より多い。したがって塩水選の基準を厳守したい。また坪当りの株数を増加させるため種籾は一〇アール当り五キログラム用意したいものです。

床土の準備

よい苗は、よい種籾選びと同様よい床土を準備することである。床土は酸度四・五・五・〇のものを用意してほしい。土性は壤土か埴壌土がよく、砂土は根組みが悪くマッド苗が出来にくい。

床土はよく乾燥させてから使用しないとカビの発生原因になる。床土の量は、稚苗では一〇〇(一斗缶で六杯)位、中苗では一七〇(一斗缶で九・五杯)位用意する。またタチガレン粉剤は、一箱当り六グラムですから箱数に応じて量を意用する。一袋(一K)で一六六箱分です。薬と肥料がよく床土と混ざるようにていねいに行なう。これで床土の準備完了となる。

育苗箱、ビニールハウス等

安定多収を得るためには、坪当りの株数を多く入れることである。それには、うすまきで健苗をつくることになる。うすまきにする

種籾では、二〇〇g(二合)まきに坪当り株数八〇〇八五株にする。箱数は二四箱、中苗ですと一五〇gで三四箱は用意したいものです。

山間部は中苗主体にし、平担部は中、稚苗でもよく、要はうすまきにして健苗をつくることである。箱数が多くなるとそれにとまないうすまき面も多く要する。坪当り一五箱とみてハウス面積を算出したいものです。

耕作面積の調査に

ご協力ください

今年も水田の耕作面積を調査することになった。この調査による個々の農家の面積は

農協、共済の賦課金

米の政府買入限度数量の配分

航空防除の負担金

などの基礎になり、この面積を積み上げた部落ごとの面積や、町全体の面積は、いろいろな計画策定や、実績の検討をする際の基本資料になる。

昨年もこのような目的で調査したが、この一年間の売買による移動、開田や転用、さらには全面委託などについても把握し、今後の指導センターの業務に活かしていきたい。

なお今年の調査は、各農家ごとに地番、面積を記入した調査表を配布するので、その内容について

浸種

種籾には十分水分を吸わせないと発芽ムラ、生育不揃いが出る。浸種は、積算温度で一〇〇度Cが一応の目安です。水温が低いときは長く、高いときは短かく浸種します。普通は二週間位です。

播種期に合せた日取りを考え、消毒日数(二昼夜)も加えた日数をとってほしい。

以上育苗上の諸準備について述べたが、準備がしっかり出来ないとなるとの育苗に支障をきたすので早めに準備完了したいものです。

て、してほしい。

第十八回秋田県優良家具展、本町から出品した整理タンスなど四品目が入賞した。

この展示会は、秋田県産のスギ・ブナなどを利用して伝統的な技能と近代的な加工技術を駆使して創り出された家具、木工芸品、竹工品を中心に展示販売されたもの。木材の素朴な美しさと豊かさ、さらには木製品と生活に密着したものとして好評を博した。

本町関係の入賞者はつぎの通りである。

秋田県木材産業協同組合連合理事長賞

整理タンス、菊地合板木工KK(菊地 庄七)

全国家具工業連合会会長賞

杉 棚 興真木工(渡辺真一)

日本経済新聞社賞

杉飾タンス 伊藤忠次木工所(伊藤 忠次)

日本木工新聞社賞

飾 棚(扇型) 齊真タンス店(齊藤 真作)

発明考案の

実用化試験に補助

優秀な発明や実用新案に対し、まだ実施されずに埋れているケースが多い。このため科学技術庁では実施化の試験に対する費用を補助するものである。

▽補助の交付対象

・特許権または実用新案権

・特許出願または実用新案登録出願

昭和五十一年度六月三十日までに出願したもの。

ただし、昭和四十六年一月一日以後出願したものについては、補助

助、申請の日までに出席審査の請求したものに限る。

・まだ企業化されていないもの

・昭和五十三年三月三十一日まで確実に試験が終了の見込みのもの。

▽申請者の資格

他人または法人(資本金十億円以下)

▽申請書の提出期限

昭和五十二年三月二十二日まで

詳しくは県商工課工業振興係(電話一八八六〇一六八四)

第一回 美術作品展示会

金賞に猿田まつ江(83才)さん

— 主婦と子供と老人の会主催 —

去る三月二日から五日まで川端会館で「主婦と子供と老人の会」主催の第一回美術作品展示会が盛大に行われた。

今回の展示会には主婦、老人、子どもから絵画、書道、写真、民芸品など合せて四百点が出品され、猿田まつ江さん(八三才)の人形が見事に金賞に輝いた。

会ではこれからの作品展を開き大きな輪を広めようとはりきっている。

各賞の入賞者はつぎの通りである。(敬称略)

銀賞 社協会長賞

書道 館岡久雄(古川町)

銅賞 五老連会長賞

絵画 中村京子(一番町)

優秀賞 社協会長賞

民芸品 工藤ミチ乃(田町)

絵画 本間 謙(一番町)

絵画 児玉ヨシエ(中川原)

色紙、書道 伊藤ミチ子(古川町)

民芸品 小松松之助(田町)

民芸品 伊藤 幸(田町)

色紙書道 分銅光山(紀久栄町)

特別賞 五老連会長賞

絵画、色紙 小林千代(古川町)

民芸品 雪香 雅名金吉(田町)

民芸品 本間トミエ(岩城町)

写真 佐藤 久光(一番町)

民芸品 山口 愛子(古川町)

写真 川村 拓(古川町)

努力賞 夢を育てる会会長賞

民芸品 渡辺 貞蔵(岩城町)

民芸品 齊藤フデエ(紀久栄町)

写真 小森 なか(米沢町)



健康診断を受けておきましょう

4月 ごみ収集日

町 名	4 月				
	1回	2回	3回	4回	5回
希望ヶ丘	5	10	19	25	
田 町	5	10	19	25	
広ヶ野	5	10	19	25	
今 町	5	10	19	25	
御蔵町	5	10	19	25	
小池町	5	10	19	26	
新 町	6	12	20	26	
一番町	6	12	20	26	
古川町	6	12	20	26	
紀久栄町	6	12	20	26	
中川原	6	12	20	26	
館 町	6	12	20	26	
岩城町	6	12	20	26	
築地町	1	7	15	21	27
畑 町	1	7	15	21	27
新 町	1	7	15	21	27
矢場崎	1	7	15	21	27
仲 町	2	8	16	22	
長 町	2	8	16	22	
米沢町	2	8	16	22	
雀 館	2	8	16	22	
昭辰町	2	8	16	22	
大川一區	4	9	17	23	
二區	4	9	17	23	
三區	4	9	17	23	
四區	4	9	17	23	
富津内	13	28			
内川目	13	28			
馬場目	13	28			
大川(本村以外)	14	30			
面湯	14	30			
馬 川	14	30			

- 1 廃棄物は、袋、標箋のないものは収集されませんので必ずつづけるように。
- 2 特別重いものや大きい廃棄物は遠慮願う。
- 3 廃棄物一箇の大きさは、リング箱程度に定めてあるので厳守のこと。
- 4 廃棄物収集所には収集当日午前8時までに、5 焼却場休みの時の直撤は受付しない。



雨の日にご注意
金の中は目くし
してはダメ

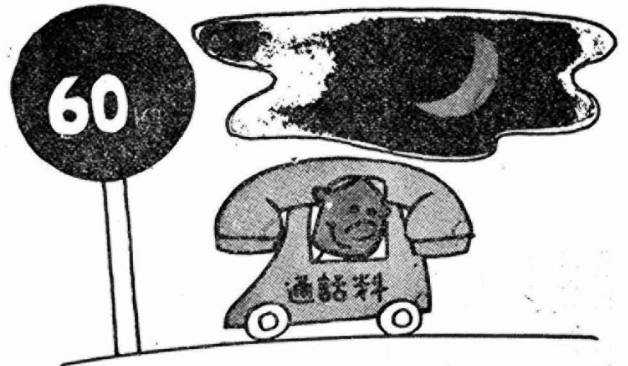
卒業式と修了式の日程

三月十五日
午前九時半 富津内小学校
午前十時 五城目第一中学校
午前十時半 富津内中学校
三月十六日 午前十時 杉沢小学校
三月十七日 午前十時半 五城目幼稚園
午前十一時 内川保育所
三月十八日 午前十時半 杉沢中学校
三月十八日 午前十時 五城目小学校

60kmを超える地域は、ダイヤルでかけても夜間割引になります。

(村山地区から山形・天童・寒河江・河北・新庄・長井・仙台・塩釜地区の近距離地域は割引になりません。)

(秋田から能代・本荘・横手などは割引になりません)



国民年金保険料が二千二百円に

一五十二年四月から

国民年金の保険料が、四月分から一カ月二千二百円になる。

いままで、国民年金の保険料は制度の普及を図るため、低い額におさえ、徐々に引き上げて長期間でバランスをとることにしていた

しかし、老令年金をはじめ、各種年金の大幅引き上げや、物価スライド制の導入、また受給者の急増などで、いままでの保険料では賸りきれなくなった。

これを賸りためには、かなりの保険料の引き上げが必要となる。

しかし、みなさんの負担が急に増えるのを避けるため、徐々に段

馬場目小学校
内川小学校
大川小学校
富津内保育所
大川保育園
五城目保育園

午前十時半 富津内保育所
午前十時 大川保育園
三月二十三日 五城目保育園

階的に引き上げることになっている。例えば、現在の給付額を賸りためには、一カ月五、〇四〇円の保険料が必要となる。

国民年金制度をよりよくするため、保険料の納付にご協力ねがいたい。

詳しくは住民課年金係(電話二〇〇)まで。

シンナー・ボンドなど

の乱用と少年非行

最近、青少年の間に再びシンナー、ボンドなどの乱用が激増している。

家庭裁判所で取り扱う、いわゆる「シンナー遊び」の非行は、窃盗に次いで多く、年令も十七歳を中心に低年齢化の傾向にあることなど今後とも楽観を許さない。

少年をシンナーなどの害から守り、健全に育成するため、家庭裁判所や関係機関はもろろんのこと私たち一人一人が深い関心と理解を持って問題解決に臨む姿勢が何より大切である。

来る四月一日から

大工賃金一日八、〇〇〇円

日頃町民各位には大へんお世話になっている。

このほど町建設技能組合(大工左官、板金)は四月一日から賃金を日額八、〇〇〇円に決定した。

諸物価の高騰のおり、私どもの生活給として必要最少限の値上げをさせて戴きました。何分ご理解の程をお願いいたします。

昭和五十二年三月十日

五城目町建設技能組合
組合長 坂谷貞之助

献血ありがとう

誕生おめでとう

加藤 広子初	佐藤 毅5	仲町 小森隆司	1、20
越前 正人3	土橋 正夫初	隆一郎・普美子	1、26
古戸 和好2	児玉 高昭	殿・恵子	1、28
佐藤 清次初	牧野 正次	政武・ミチ	1、28
石井 保春	安田 保夫2	沢田石美樹子	1、28
工藤 謙一2	千田 力初	栄一・富子	1、29
渡辺 慶博2	小林 時子	芳雄・千代子	1、30
小野 正子初	山田ひとみ	文夫・トモエ	2、3
狼賀賀寿子	工藤 直子	八柳 公子	2、3
伊藤登志子	斉藤 明美	鋼一・みき	2、4
伊藤 博孝	加賀屋 誠	重春・安子	2、5
佐藤 幹也	佐々木久美	伊藤 誠二	2、9
小野 護	阿部 勝彦	徳雄・泰子	2、11
石井真紀子	伊藤 優子	見玉重貴子	2、11
佐々木ヒロ子	館岡 房子	誠昭・美保子	2、11
小野 一寿	佐々木正男	館岡 健一	2、11
畠山 登	高橋三千樹	実・アサ子	2、11
千種 久志	平塚 徹		
近藤 亨	渡辺 裕二		
金沢ヒナ子	川村チネ子		
山田 久男	千田美和子		
小林 輝和	一関 正明		
小林 信夫	加賀谷庸文		
小沢 広子	佐々木美和子		
大宮 紀子	渡辺 功		